

Ⅱ 低コスト再造林・保育技術の確立

(実施期間：平成26年度～30年度 予算区分：県単 担当：山増 成久)

1 目的

鳥取県では、昭和30年代末をピークに造林面積が減少しており、人工林の林齢構成は50年生前後に集中している。伐期に達している森林資源は充実しているが、木材価格の低迷や皆伐後の造林・保育コストの不採算性から皆伐・再造林が控えられている。このままでは偏った林齢構成は解消されず、将来の森林資源に支障が生じる恐れがある。このため、皆伐・再造林の阻害要因となっている造林・保育経費の縮減を図ることにより、人工林の適切な更新を促進することを目的とする。

2 実施概要

異なる下刈方法の行程調査と植栽木への影響を調査した(図1)。

表1 試験地概況

試験地	日南町湯河	岩美町蒲生
植栽木	スギ(4年生)	スギ(3年生)
面積(ha)	0.63	1.75
植栽密度(本/ha)	3000	1000~2000
傾斜(度)	10	14
斜面方向	NE	W

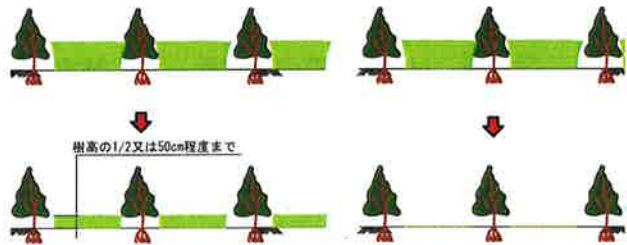


図1 下刈方法

3 結果

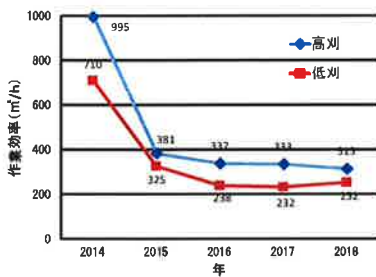
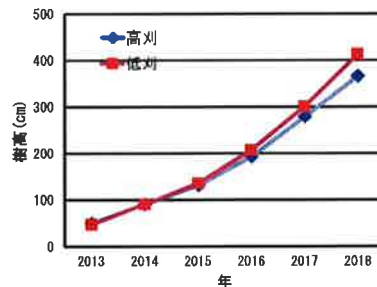
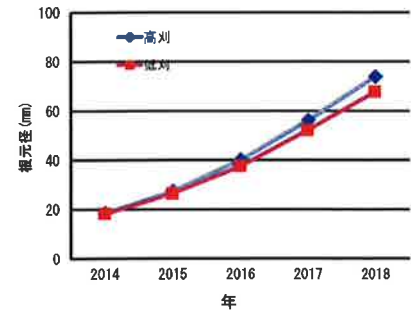


図2 日南町湯河試験区 下刈工程



樹高



根元径

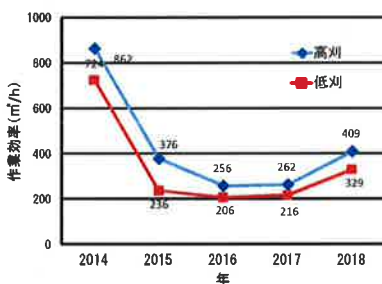
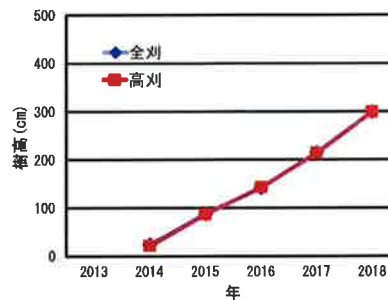
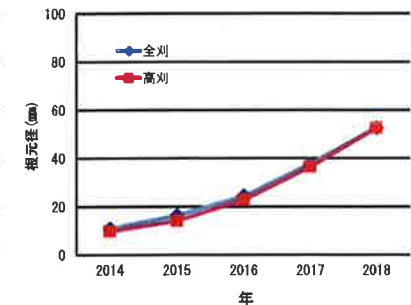


図3 岩美町蒲生試験区 下刈工程



樹高



根元径

下刈方法の違いによる、植栽木の成長への影響については大きな違いはみられなかった。